

第2回 沖縄県マリンタウン国際会議・大型展示場整備運営等事業の検証等に関する有識者委員会

議事概要

1. 日 時：令和7年3月26日（水）10:00～12:00
2. 場 所：沖縄県教職員共済会館 八汐荘 中会議室 A
3. 出席者：

—委員—

下地	芳郎	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	会長
小倉	暢之	琉球大学	名誉教授
原	利一	松江コンベンションビューロー	
		一般財団法人くにびきメッセ	誘致統括官
前田	博	森・濱田松本法律事務所	弁護士
手計	徹也	デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社	パートナー 公認会計士
湊辺	美紀	沖縄経済同友会	代表幹事
照屋	勉	与那原町	町長
崎原	盛秀	西原町	町長
諸見里	真	沖縄県	文化観光スポーツ部長

—事務局及び業務受託者—

沖縄県、デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社

4. 議題：
 - (1) MICE 需要動向調査結果について
 - (2) 今後の検討の方向性・次期委員会への申し送り事項について
5. 配布資料
 - (1) 次第
 - (2) 配席図
 - (3) 参加者名簿
 - (4) 資料1 MICE 需要動向調査結果
 - (5) 資料2 今後の検討の方向性
6. 議事：
 - (1) MICE 需要動向調査結果
 - コンサート需要について
 - ・ 沖縄でも大きなコンサートが開催されている。台湾、韓国からの来訪も見込み、コンサート需要の取り込みについて、より深く情報収集した方が良い。
 - ・ 1万人を集客することが難しいと思われ、沖縄県に見合った規模で開催することを目指した方が良いと考える。

- ・ コンサートの規模を縮小してしまうと、競合する施設が増える点は留意が必要である。
- ・ コンサートでは、特に設備の運搬のコストがかかるため、主催者側が沖縄までの運搬コストを負担してでも開催を望むかという点は試算が必要となる。
- ・ 全国ツアーを実施するアーティストのコンサートでは、チケットがとりやすい地方での催事に申し込むファンも多い。
- ・ MICE 施設でコンサートを開催する場合は、椅子を設置せずスタンディングのみのものも多い。ただし、椅子を設置する場合、そのための準備スタッフが必要となることから、地元の雇用や経済的な波及を生む観点からあえて椅子を設置することも考えられる。

■ その他

- ・ 将来的に沖縄コンベンションセンターが老朽化で使用できなくなった場合に、そこで開催されていた催事が一度沖縄県を離れてしまうと、戻ってこなくなってしまうことを懸念する。その際に沖縄アリーナ等の他施設で実施が難しい催事があると思うので、そのような催事を開催できる受け皿を用意すべきである。また、沖縄コンベンションセンターの使用が難しくなる前に、代替施設との連携した誘致や予約体制の整備も行わなくては、沖縄県の MICE 市場が衰退する恐れがある。
- ・ 今回の公告では、例えば天井高 15m 以上という要求水準を設定していたが、ヒアリングにおいては 8m 程度がよいという意見もあり、コスト面も考慮して、施設の仕様についてターゲットとなる催事をもう少し厳密に絞っていくことも考えられる。
- ・ MICE 来訪者は、会場周辺にずっと宿泊しているわけではなく、アフター MICE も重視し、主要な観光地を巡る。沖縄県は、首里城などの文化遺産や、美ら海水族館などの観光資源は魅力的であるが、観光地に行くまでの交通手段であるバス路線が減便されているように感じる。
- ・ 沖縄県の観光の魅力は他の地域よりもあると考える。その中でこの事業を成立させていくため、民間事業者がどこで利益を出せるかを検討しなければならない。

(2) 今後の検討の方向性

■ 事業スキーム・事業範囲について

- ・ 本件において、施設の整備と運営の一体発注は必須か否かという点は検討する必要がある。先行事例でも施設整備と運営を切り離した事業や、整備期間と運営期間で代表企業が変わった事例がある。
- ・ 運営事業者を選定した後で整備事業者を選定することも考え得る。
- ・ 独立採算で運営を行うべきかについても検討を行うべきである。県の支援の在り方として、資金面の助成だけではなく、マリンタウンエリア・東海岸の発展に寄与する観光政策や交通政策を積極的に展開していくことも考えられる。
- ・ 民間事業者の中にはホテルを一体的な整備とした方が参画しやすいという声もあったと認識しており、ホテルを一体的に整備するかという点も民間事業者側に選択肢があると良い。
- ・ 那覇市内から与那原町への交通アクセスが良くなることで、ホテル事業の切り離しも選択肢となると考える。

■ 運営・催事誘致について

- ・ PCO が催事誘致にあまり寄与できていない事例もある。国内の主要な MICE 施設（東京ビッグサイト、国際フォーラム、パシフィコ横浜、幕張メッセなど）はいずれも PCO が関わっていないということを鑑みて、運営事業者を求める要件について改めて検討することも一案である。
- ・ 週末に開催される催事が多いと思うので、平日は閑散としたエリアとなってしまう可能性を危惧している。当初の大型 MICE 施設の整備目的である沖縄コンベンションセンターで実施が難しい催事を開催する趣旨を踏まえながら、平日の稼働を確保するための策についても検討すべきである。

■ エリアビジョン・地元の取り組みについて

- ・ マリントウンをはじめとする東海岸地域がビーチ、マリナー、文化遺産を有する地域であることをアピールしつつ、同時にさらなる観光資源の底上げをすることで主催者から選ばれる大型 MICE 施設を目指してほしい。
- ・ 与那原町では、MICE を誘致した際のまちづくりや地元の雇用確保に向けて、商工会を中心に取組を進めている。
- ・ 西原町では、大型 MICE 施設整備後の展開として隣接する農振農用地の市街地編入を目指して都市計画マスタープランの見直しを進めており、近々策定が完了する。また、モノレールの延伸を実現するため、県への要請等の取組を行っている。
- ・ 国道やマリナーの整備も推進しており、それらについてもスケジュールを示せるように関係する部署との連携を図っていく。
- ・ 西海岸が中心となるゲートウェイ 2050 の議論が始まっている。東海岸の魅力を高めることで、県外から沖縄全体の観光がさらに着目される環境になると考える。

■ その他

- ・ 大型 MICE 施設がオーバースペックとならないよう、より誘致する催事の具体性を突き詰めることが重要である。
- ・ 本事業の入札不調要因として、繁忙の中で民間事業者が無理をしてでも獲得したいと考えられるような収益性を期待できる案件ではなかった点が挙げられる。施設の整備や維持管理に係るコストは予測が立てやすいものの、収益は不確実性が高い事業であるため、事業条件の再整理を進め、少しでも民間事業者の参画意欲を高めていくことが重要である。
- ・ 民間事業者からみて収益性の観点で魅力があるかというシミュレーションの提示と、周辺まちづくりと一体となったアピールが必要である。

以上